

アチツシと知恵



Ghanaian folktales
Wiehan de Jager
Kohei Tsuji
3
日本語

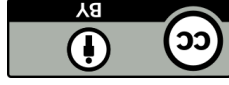


Global Storybooks

globalstorybooks.net

アチツシと知恵

Ghanaian folktales
Wiehan de Jager
Kohei Tsuji



This work is licensed under a Creative Commons
Attribution 3.0 International License.
<https://creativecommons.org/licenses/by/3.0>





昔々、人々は何も知らなかった。彼らは農作物の植え方も、服の縫い方も鉄の道具も作る方法も知らなかった。空に住んでいた神ニヤメが世界のすべての知恵を持っていた。彼はそれを安全に粘土の壺にしまっていた。



壺は壊れて地面にバラバラに割れた。その知恵はみんなに自由に共有された。そうやって人々は農業や服の作り方や、鉄製の道具の作り方、そして他の知恵も学ぶことができた。

ある日、ニヤメは壺の知恵をアナンシ
 にあげることにした。毎回アナンシは
 壺を覗き込み、何か新しいものを学ん
 だ。彼はそれを楽しんだ。



すぐに木の頂上に着いた。しかしそこ
 で彼は止まり考えた、僕はすべての知
 恵を持っていると思っていたが、自分
 の息子の方が賢いじゃないか! アナン
 シはこのことについて怒って、壺を木
 からほうり投げた。





強欲なアナンシは思った、高い木の上に壺を置いておけば安全だ。そして独り占めすることができる！彼は壺を長い紐でお腹に巻いた。木を登り始めた。しかしずっと膝の間で壺が跳ねて木を登ることは難しかった。



ずっとアナンシの若い息子は木の下で木を見ながら立っていた。そして彼はお腹の代わりに背中に壺を結んだ方が簡単ではないか？と言った。アナンシは背中に結び登った。それはとても簡単なことだった。